

# 「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会 第5回スタッフ会議報告

- 【日時】 2009年6月27日(土) 午後1時10分～4時30分  
 【場所】 神戸大学発達科学部 G棟1階 G105学生実験室  
 【出席者】 布谷(滋賀)、武田・鈴木(兵庫)、高島・木村・佐藤・伊東・神田・宮田(大阪)、  
 村田・寺西・下田(京都)、久保田・河合(奈良)、狩山(岡山)、井上・松村(島根)、小川(徳島)、末広(香  
 川)、松井・平田・渡辺・小林・橋越(愛媛) 以上24名  
 【司会】 高島(大阪自然環境保全協会) 【記録】 木村(同)  
 【案件】

\*まず、会議の案件に先立って「識別困難な調査サンプル」の検討会を行った。

岡山・島根などから、タンポポ頭花の実物が持ち込まれ、総苞の状態や花粉の形態などを観察しながら議論を  
 しました。

## (1) 前回スタッフ会議の報告(別紙、第4回スタッフ会議報告2009.2.14参照)

- ① 日時 2009年2月14日(土) 午後1時40分～4時30分
- ② 場所 大阪自然環境保全協会事務所
- ③ 出席者 布谷(滋賀)、武田・鈴木(兵庫)、伊東・高島・木村・横山(大阪)・今村(京都)、久保田(奈  
 良) 以上9名
- ④ 主な案件
  - ・予備調査説明会について、調査用紙のゲラの最終確認、調査委員会の会計・予算、
  - ・各府県別の参加状況と事務局、ホームページ・メーリングリスト、(名義)後援団体

## (2) 各府県別の調査サンプルの回収状況(事務局で把握しているものに、当日の参加者で追加・修正 を加えていただいた。まだ、報告のないものや変更があれば連絡下さい)

	番	府県名	事務局・封筒あて先	代表	送付数	処理済	備考
近畿 地方	18	福井	ウェットランド中池見	横山	417	393	
	24	三重	三重県民の森	川村	700	601	
	25	滋賀	琵琶湖博物館	布谷	926	926	
	26	京都	京都学園大学	今村	約600	数十	
	27	大阪	大阪自然環境保全協会	佐藤	1500	968	
	28	兵庫	県立人と自然の博物館	鈴木	4000	1000	
	29	奈良	奈良自然観察会(久保田)	久保田	800		
	30	和歌山	県立自然博物館	内藤	?		
中国 地方	31	鳥取	県立博物館	有川	194		
	32	島根	三瓶自然館	井上	700	315	
	33	岡山	倉敷市立自然史博物館	狩山	3100	3003	
	34	広島	広島県高等学校教育研究会 理科部会生物部	平山	?		
	35	山口	山口県植物研究会	真崎博	?		
四国 地方	36	徳島	県立博物館	小川	>900		
	37	香川	香川大学・教育学部	末広	2500	2300	
	38	愛媛	松山東雲短大	松井	2300		
	39	高知	県立牧野植物園	藤川	1071	242	
	40	福岡	九州大学総合研究博物館	三島	?	?	
			合計	約2万個			

- ・サンプル数は、この時点では約2万個であり、未報告の県が4県あったが、会議後に広島県から報告が  
 あった。2004年の近畿の予備調査では約7700件で、本調査が23000件集まったので、合計が約31000

件であったのに比べると、まず順調な集まりであるといえる。

- ・その後、参加者から各府県の状態について、報告いただいた。どの府県も花粉の観察には苦勞しておられるようで、まだ、ほとんど処理が進んでいない府県もあった。

### (3) 2010年度調査に向けての取組み(2009年度調査の反省、小川氏・鈴木氏・横山氏他のメーリングリストへの書き込みからまとめた。河端氏の分は別紙として配布)

- ① 本調査にむけて全体としての問題点・・・今回は問題提起にとどめ、次回のスタッフ会議でまでにメーリングリストなどを用いて議論を深め、次回にも取り上げて一定の結論を出したい。
  - ・資金をどうするのか → 印刷費が必要 → 様々な助成金制度の活用
  - ・参加者をどう募集するのか → 効率的な参加者募集方法は？
  - ・調査方法をわかりやすく伝えるには → 調査用紙の検討・改良・ホームページの整備  
→ 徳島県・小川氏の作られた「調査用紙」がわかりやすいので、それをたたき台としてその修正を議論したい。
  - ・調査状況を共有するには → 既調査メッシュの表示
  - ・解析方法をどうするのか? → 外来種比率を計算するならメッシュの統合をすべき  
4メッシュ(2×2)または16メッシュ(4×4)単位ではどうか? 各1kmメッシュ内にカンサイが10地点あってもそれは1として扱う
  - ・位置情報の入力・確認の省力化 → 文字で場所が書かれていると地点入力がかたいへん  
→ 本当に世界測地系で記録されているのか? 地点のエラーが出た場合: 海上の点の存在
  - ・参加者が利用しやすい地点の記録方法をどうするか → 携帯電話での記録方法、WEBからメッシュ地図を印刷できるようにする
  - ・保険のかけ方 → 実行委員会メンバーへの損害賠償保険等は?
  - ・調査マニュアルの完成
  - ・調査が手薄な地域へのサポートをどうするのか? → 他県からのサポートが必要
  - ・全体と各県の実行委員会の名称の呼び分け: 両方とも実行委員会・事務局でややこしい
  - ・名称の固定と長期的計画 → 継続的な調査を行うのであれば名称を固定した方が良い  
→ 調査が空いている期間にも研修会や調査方法検討等の活動を行う
- ② サンプル処理・花粉観察を行っての感想・今後の改善点
  - ・花粉がないサンプルが前回より多いと感じた(1割くらいがない、大阪)
  - ・調査票を開く時に整理番号の欄を切ってしまうようになる。もっと内側に作ってほしい。
  - ・頭花を包むティッシュペーパーが薄過ぎたり、包まないで封筒などに入っていると、頭花が乾き過ぎて花粉をセロテープに取るのが難しい
  - ・学校で、調査用紙を工夫され、タネを別にされていない場合、市立大学にタネを送ると調査票も一緒に送ることになる。データ入力を済ませなければ送れないので、急がされることになる
  - ・高校生の宿題でもらっているもので、春休みの宿題で新年度提出だとタネがまだ成熟していない時期であることもあり、大部分が「外来」となっています。
  - ・学校でまとめてする場合は4月中旬までに授業で説明して、GW空けに回収がよいかと感じました。(もっともこの場合はブタナがかなり混じってくるでしょう。)
  - ・(高校生では) どう調べたかはわかりませんが、経緯度は世界測地系60進法で6割くらいは正しく入れてくれています。2割くらいは目印の場所からの推定、残りは経緯度と目印が一致しないもので、日本測地系での入力のものがある程度混じります。結局は経緯度と目印を両方記入してもらおうと作業が楽なようです。
  - ・高校では学校単位の結果のまとめを作成すると喜ばれる。
- ③ 同定や分類に関する問題点
  - ・ツクシタンポポをどうするのか?、未判明群をどうするのか?

- ・分類困難な群の特徴の共有 → ヤマザトとケンサキ、キビシロとシロバナの同定方法の共有 → 一般の人向けに細かい形質を示した解説を設けてほしい
- ・総苞・花粉以外の形質が使えないか？ → 果実の形態に違いはないの？

#### (4) 今後のデータ解析について

- ① 前回の主な解析データ
  - ・各府県の種類別・生育環境別・総苞外片の状態別などの地点数
  - ・3次メッシュでの種類別分布地図・外来種(雑種を含む)の比率段階地図
  - ・55メッシュ(3次メッシュ25個分)での外来種の比率段階地図
- ② 今回はどのような解析を行うか
  - ・府県別の基礎的なデータ処理は必要
  - ・基本マップの作成：3次メッシュでの種類別分布地図
  - ・2次メッシュ(2.5万分の1地形図1枚分、約100km<sup>2</sup>)で比率段階地図
  - ・2次メッシュで、各種類が分布する3次メッシュ数を示す地図

#### (5) 実行委員会予算について

- ① 現在の残金：現時点では「約28万円」？。
  - ・収入：前回調査の残金(29万円)+大阪市大よりの寄付(4.5万円)+今回のカンパ(約5万円)
  - ・主な支出：会議の会場費など(約10万円)・調査用紙の印刷費用(伊東氏から)
- ② 今後の予算見積もり
  - ・本調査・雑種解析を含めた必要金額として、2005年の近畿の調査では7府県で約350万円の助成金を使ったので、今回は約500万円必要だろう。前回同様に、助成金などを獲得する必要がある。\*各府県実行委員会独自で助成金などを申請していただいてもかまいません。
- ③ 助成団体の選択

前回調査時の助成団体	金額	担当	今回の可能性・新規			締切り	担当
1 日野自動車	45万	布谷	同一団体が可能か？			7/末	
2 タカラハーモストファント	50万	木村	同じ団体は資格なし			3/末	×
3 NACS-J	80万	木村	再申請が可能か？			?	
4 河川環境管理財団	175万	伊東	1件200万まで、			9/末	
新規助成団体	締切り	金額	申請	結果	備考		
5 西日本博物館社	済み	10万円	鈴木	○			
5 富士グリーンファント	5/19	200万円	鈴木				
6 武田科学振興	済み	30万	木村	○			
7 イオン財団	8/31	総額1億					
6 地球環境基金	1/25	平均400万					
8 セブンイレブン	1/31	上限360万			2~3年間		
9 ニッセイ財団	4/14	平均200万			総額4000万,研究		

#### (6) そのほかの検討事項

- ① 「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会のホームページについて

- ② メーリングリストについて……実行委員会用のMLは活用されているが、一般用のMLは書き込みが少ない。もっと簡単なタンポポの話題でもいい。
- ③ (名義)後援団体について
- ④ その他

#### (7) 今後のスケジュール

2009年	6月27日(土)	第5回スタッフ会議・サンプル処理講習会
	7月17日(金)	データ入力締切り
	7月～8月	予備調査結果の解析→中間報告書の作成(～12月)
	8月29日(土)	第6回スタッフ会議(一部のデータ速報可能か?)
	11～12月	第3回実行委員会(本調査に向けて)
	～12月末まで	本調査時の事務局の確定と調査用紙の印刷
2010年	2月～3月	第4回実行委員会、兼現地説明会・講習会
	3月～5月	本調査の実施
	6～12月	本調査結果の解析(西日本全体・各府県別)
2011年	3月まで	最終報告書の作成

#### <当面の予定>

- ① 本日欠席の府県のデータ数の把握(和歌山・山口・福岡)と入力データ送付の依頼  
\* 瘦果の送付の確認(大阪市立大学・伊東先生)
- ② データ入力締切り……7月17日(金)添付ファイルで「[tampopo2010@nature.or.jp](mailto:tampopo2010@nature.or.jp)」までお送り下さい。
- ③ 送付されたデータの基礎的な解析……佐藤治雄氏を中心に基礎的な解析を行う。
- ④ 第6回スタッフ会議
  - ・日 時：8月29日(土) 13:00～17:00
  - ・場 所：大阪自然環境保全協会
  - ・内 容：本調査にむけて、調査の目的について議論して共通認識をもつ。  
予備調査結果の速報(この日までに可能な基礎的解析)の報告  
予備調査報告書の作成に向けて  
本調査に向けての検討(実行委員会組織・調査用紙や方法・その他)
- ⑤ 予備調査結果の解析
  - ・西日本全域・各ブロック・各府県・その他……できるだけデータを共有して解析。
- ⑥ 第7回スタッフ会議
  - ・日 時：10月11日(日) 13:00～
  - ・場 所：大阪自然環境保全協会
- ⑦ 大阪自然史フェスティバルへの参加……事務局で参加準備を進めていく。
  - ・2009年11月14日(土)～15日(日)、出展締切り：7月31日の予定
  - ・会場：大阪市立自然史博物館
- ⑧ 第8回スタッフ会議
  - ・日 時：12月6日(日) 13:00～
  - ・場 所：大阪自然環境保全協会
- ⑨ 第3回実行委員会
  - ・日 時：2010年1月30日(土) 13:— ～ :
  - ・場 所：大阪市・梅田周辺の便利のよいところ
  - ・内 容：予備調査結果の概要報告・2010年本調査開始への取り組み

以上